

転写資料記述法の 歴史民俗研究への適用から見た評価

Evaluation of a Description Method for Copied Materials
in Historical Researches

仁藤敦史・高橋一樹・大久保純一・
村木二郎・内田順子・安達文夫

NITO Atsushi, TAKAHASHI Kazuki, OKUBO Jun'ichi,
MURAKI Jiro, UCHIDA Junko and ADACHI Fumio

- ①はじめに
- ②評価の対象と方法
- ③記述法の評価
- ④課題の整理
- ⑤むすび

[論文要旨]

アナログ形式の写真やそのスキャンによるデジタル形式の画像のように何かを写し取っている資料を、その形態によらず転写資料と捉える。転写資料として、所蔵資料の写真やそのデジタル画像が多用されるが、複製や古文書の写しも転写資料の一つとみなせる。さらに、絵画資料も何かを写し描いている点で転写資料と見ることができる。また、フィールド調査での写真や映像は転写資料であるが、その写される対象は、形が一定であり管理されている所蔵資料とは性質が異なる。このような資料に対して、転写資料の記述法が適用できるかの評価を行った。

複製と写しの実物の原資料は、それぞれの元となった資料と認識される。一方、これらの写真の原資料は、忠実に再現している複製では元々の資料であるが、意味的に転記している写しでは写しの実物に変わる。どこまでを転写と見るべきかが課題となる。

フィールド調査での写真では簡潔な記述法が求められる。映像資料では転写元が編集されて転写されることを反映できる記述法が必要なことが明らかとなった。編集や創作が加わる転写資料の原資料をどのように捉えるかが課題となる。

【キーワード】 資料情報, 歴史資料, 博物館資料, デジタルデータ, 複製